

関東の森林から



国民の森林・国有林
関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://kokuyurin.maff.go.jp/kanto/>

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



那須街道赤松林の保全に向けた取組 高久国有林（栃木県那須町）
左：松枯れ防止薬剤の樹幹注入作業 右：ボランティアによる植栽

（撮影：塩那森林管理署）

准フォレスター研修修了者等を対象とした
フォローアップ現地検討会を開催
森林整備部 技術普及課

私と国有林

「素晴らしい富士山を後世に」

.....富士市.....小林 清.....

准フォレスター研修修了者等を対象とした
フォローアップ現地検討会を開催

森林整備部 技術普及課

関東森林管理局では、准フォレスター研修修了者及び技術者育成研修修了者を対象に、フォレスター等の更なる技術力の向上と、横の連携を深める観点からフォローアップの取組として、森林共同施業団地と木質バイオマスをテーマに、平成26年度準フォレスター等フォローアップ現地検討会を、12月16・17日の両日、吾妻森林管理署管内において開催しました。

参加者は、国有林職員12名、管内



民国連携についての説明

1日目は、吾妻森林管理署において森林整備に伴う森林経営計画の策定と民国連携の森林共同施業団地について、局担当職員及び吾妻森林組合職員から事例を紹介、その後、四万駒岩地区森林共同施業団地に移動し、現在作設中の作業道を検討対象として、低コストで壊れにくい作業道を作るための具体的な改善手法等について、水処理の手法や曲線の設



森林作業道の現地検討の様子

の県職員10名（新潟県2名、群馬県6名、栃木県2名）の計22名でした。

定方法・盛土の安定化手法など、各自の知識や経験を交えての活発な意見交換が行われました。
また、急傾斜地における作業道の作設予定箇所においては、森林共同施業団地全体の搬出方法や路線選定、急傾斜対策工法等について、課題解決に向けた糸口等について意見が交わされました。

2日目は、株式会社吾妻バイオパワー社が運営している木質バイオマス発電事業施設で、発電所担当者から、施設やその稼動状況等について説明を受け、参加者からは、今後の施設の運営や資材の供給体制等について質問等が出されました。



バイオマス発電施設内での検討



燃焼材を供給するチップ工場

その後、あがつま森林育成事業協同組合が運営している木材チップ工場へ移動し、チップ工場関係者から協同組合設立の経緯や稼動状況について説明があり、需給量の見通しや採算等について質疑が行われました。各施設での現地検討後、吾妻森林管理署に戻り、2日間を通してのアンケート調査を行い、今回の検討会は終了となりました。

今後も、参加者等からの意見・要望等も参考に、実際の現場に活かせる現地検討会になる様、内容を充実させるとともに、さらなる技術力向上を目指したフォローアップに取り組んでまいります。



高尾森林ふれあい推進センターでは、森林とふれあいたいという都民の要請に応えるため、様々な活動を行っています。今回は、今年度秋期に実施した活動の中からいくつかご紹介いたします。

【森林カレッジ】

今年度第三回目の森林カレッジを、カレッジ生24名の参加を得て10月4日に当センターで実施しました。講師に森林総合研究所多摩森林科学園の吉丸園長を招いて「桜について



森林カレッジ《講義の様子》

て学ぶ」と題してお話して頂きました。



森林カレッジ《全科学園散策の様子》

桜は栽培品種が多く、その正確な分類は難しいものがありました。近年、遺伝子解析による分類が進み、桜の正確な分類が確立されました。遺伝学がご専門の吉丸先生は、森林科学園における桜の正確な分類作業を主導され、成果をとりまとめられ「枝垂桜はエドヒガンが多い」「河津桜はカンヒザクラとオオシマザクラの種間雑種と考えられる」といった話に参加者は興味深げにメモをとっていました。

参加者からは「時期外れの内容かと思っていたが、桜について詳しく知る事ができ、花の時期に科学園を是非訪れたいと思った」「ますます桜に興味を持つことができた」等

の感想を頂きました。午後からは、先生の案内により科学園を散策して終了しました。

【依頼イベント】

教育機関からの依頼による森林教室は、10月15日に八王子市立七国小学校5年生149名、31日に同市立みなみの君田小学校5年生112名、11月7日に横浜市立下田小学校4年生99名の参加を得て実施しました。

森林ふれあい館を利用して、森林や林業についての説明を受けたほか、丸太切りなどを体験しました。午後からは森林散策を行い、生徒たちは、紅や黄色に彩られた森林を体全体で味わっていました。



森林教室の様子

【協定イベント】
今年度森林ふれあい推進事業の協定を締結した団体は3団体です。そのうち「森とでんえん倶楽部」の秋期の活動をご紹介します。

「森とでんえん倶楽部」は、10月5日に小学生の親子30名を募集して日影沢キャンプ場で「草木染」を開催しました。玉ねぎの皮を使って染めたハンカチのきれいな模様を見て、みんな大喜びでした。このほか草笛作りなども体験して楽しみました。また、11月2日には、親子24名の参加を得て「ハイキングと植物観察」を行いました。「いろはの森」での植物観察のほかにドングリの笛作り、竹とんぼ作りなどを行いました。都会の子供たちは夢中になって取り組んでいました。



「森とでんえん倶楽部」の草木染の様子

私と国有林

「素晴らしい富士山を後世に」

富士市 小林清

◇富士山に魅せられて

私は富士市に生まれ、富士市で育ち富士山と共に生活してきました。

学生時代から山登りが大好きで、山岳部に入部し、様々な山に登りましたが、どの山から見ても富士山の素晴らしさに魅了されるばかりで、何時かは自分も素晴らしい富士山の写真を撮ってみたいと思うようになりました。

そんな時、プロの富士山写真家の写真を見て深く感動してしまい、自



富士山・茶畑

分もこんな素晴らしい富士山を撮ってみたいと思ひ、気が付けば44年間富士山一筋にカメラを向けファインダーを覗き続けてきました。



富士山(林道から)

今日では、年間約100日は撮影に出掛けています。1枚の写真を完成させることに8年間も要したのも有ります。普通に撮影しても1枚の写真を完成させるためには3年はかかります。1年目は撮影場所探し、2年目は撮影時間探し、3年目によやく本格的に撮影です。

平成4年より静岡県側の静岡森林管理署が管理している国有林内に入り、大沢崩れ、二子山、小富士、幻の滝等撮影する様になりました。林道や歩道を移動していると珍しい植物に出会えるときがあります。通常、フジアザミの花は紫色ですが、その日は、白花のフジアザミ群生地に出会うことができ、大変感動したことを今でも覚えています。



珍しい白色アザミ

「富士山の魅力とは。」と問われれば、私の答えは、独立峰でどこから見てもバランスがとれた美しい山。日本最高峰3776メートルまで子供から大人まで登れる安全な山(夏期)。静岡県側は海拔0メートル最高峰3776メートルまでの位置にあり、森林限界を秘めている山。そして、富士山の四季が素晴らしいこと。春は新緑、

夏は赤富士、秋は紅葉、冬は雪景色。

◇富士山グリーン・パトロール事業

富士山を撮り続け、各登山ルートも幾度となく歩き知り尽くした頃、森林管理署において森林監視員(GSSIIグリーンサポートスタッフ)を募集していることを知り、応募したところ採用していただくことになり、平成19年より静岡県側の三箇所(富士宮口、御殿場口、須走口)の富士山登山口付近の登山ルート、登山者の安全確認、植生荒廃防止等のためのパトロールを毎年7月～10月に掛け実施しています。



富士宮登山口で登山者に遊歩道の説明

富士山が世界文化遺産に登録されてからは、登山者各人の意識が高まりました。ゴミは持ち帰る様になってきました。ですから、以前の富士山より



宝永山で親子ハイカーに「しおり」を配り説明



宝永山山頂をパトロール

私は静岡県側の富士山国有林内の林道や歩道を20年以上歩いていますが、最近の約10年で二ホンジカが急増しました。特にここ5年間では目に余る状態です。ヒノキ、スギ、カラマツ、モミ、ナナカマド、フジアザミが被害にあり、立ち枯れ状態の

◆富士山からの恩恵これからも



新五合目登山道で「しおり」を配る

綺麗な富士山になってきました。世界文化遺産として維持していくことが、これからの課題だと言われています。 私たちGSS6名は、今の富士山を後世に残せるよう微力ではありますが毎年GSS活動を続け、ますます綺麗な富士山であってほしい、無事に安全な富士登山ができますように、と引き続きパトロールに励みたいと思っています。

所が多く痛々しく感じます。富士山周辺の牧草地も被害が後を絶ちません。 鹿も一頭一頭見るとかわいい瞳をしていても悪さをするとおぼやかせませんが、群をなすとんでもない被害に及んでしまいます。このまま放置する訳にはいきません。

静岡森林管理署では、3年前から鹿の誘引捕獲(ライフルでのシャープシューティング)が実施されています。私も写真の合間に誘引捕獲事業のお手伝いをしています。このシカ対策の捕獲事業はとも成果を上げ以前と比べ被害も随分減少してきました。

現在の表富士における鹿の頭数は、一万二千頭とも一万五千頭とも言われています。誘引捕獲やくくり罠捕獲を実施する12月・1月・2月は寒さの中で大変苦労が多いのですが、これからも富士山から数多くの恩恵を受けることができるよう、シカの頭数管理を続けて実施することが富士山にとっても国民にとっても大事な取組になってきます。

世界文化遺産に登録された富士山が、遠くから見ても、近くから見ても、素晴らしい山で有り続け、いつまでも数多くの恩恵を受けることができますよう願っています。

今月の表紙

那須街道赤松林の保全に向けた取組 高久第一国有林 (栃木県那須郡那須町)

写真は、栃木県那須郡那須町の高久(たかく)第一国有林のアカマツ林の風景を維持していくため、アカマツ林の保全に向けた取組を実施しているところです。

年々拡大を続けるマツクイ虫被害からアカマツ林を守り、後世へその姿を残していくため、松枯れ防止薬剤の樹幹注入やボランティアによる植栽などの保全活動に取り組んでいます。



平成26年度国有林間伐推進コンクールで 管内請負事業体が最優秀賞を受賞

森林整備部 資源活用課



表彰式の様子

林野庁における国有林間伐推進コンクールは、国有林野事業における間伐等の発注事業や立木販売において、優れた品質の森林整備を行うとともに、高い生産性や作業システムの特徴や成果等の取組を競い、優秀な事例を決定しています。その優秀な事例を公表することにより、高効率かつ低コストな間伐等について民有林を含めた普及、定着及び推進に資することを目的として、今年度で13回目を迎えました。

- ① 「車両系搬出間伐部門（初回）」
- ② 「車両系搬出間伐部門（2回目以降）」
- ③ 「車両系誘導伐等部門」
- ④ 「架線系搬出間伐部門」
- ⑤ 「架線系誘導伐等部門」
- ⑥ 「その他」

ます。平成26年度のコンクールは、有識者で構成する審査委員会を経て「車両系搬出間伐部門（初回）」で最優秀賞1事例、「車両系搬出間伐部門（2回目以降）」「車両系誘導伐等部門」「架線系搬出間伐部門」でそれぞれ優秀賞1事例が選ばれました。

関東森林管理局からは、「車両系搬出間伐部門（初回）」に茨城森林管理署管内で事業を実施した美和木材協同組合（茨城県常陸大宮市）及び「車両系搬出間伐部門（2回目以降）」に静岡森林管理署管内で事業を実施した掛川市森林組合（静岡県掛川市）の2件を林野庁に推薦しました。このうち、美和木材協同組合が最優秀賞に選ばれ林野庁長官より賞状が授与されました。

なお、惜しくも林野庁では表彰の対象にはなりませんでしたが、作業地に合わせた工程管理の工夫、若手職員への技術継承等について取り組まれた掛川市森林組合に対しても取組内容が優秀であることから関東森林管理局長より表彰状が授与されました。

また、平成26年度の受賞事例については、林野庁のHPにて取組事例を広く公表しています。

【林野庁HP】URL

<http://www.rinya.maff.go.jp/j/gyoumu/hanbai/kambatusuisinkon/ncuru.html>

最優秀賞を受賞した 美和木材協同組合の事例

車両系搬出間伐部門（初回）

フェラーバンチャー付きグラップルバケットを使用し、森林作業道作設と支障木の伐倒をオペレーター1人で行い作業を効率化を図るとともに、ヘッド固定式のロングリーチグラップルを使用し、集材作業の効率化と路網密度を低く抑えた。

また、高速フォワーダを使用し、長距離の運材の効率化を行ったことにより、生産性は6・1m³/日から8・1m³/日と30%アップし、あわせて生産コスト低減も図れた。



森づくりの最前線

千葉森林管理事務所 上野森林事務所 首席森林官 石飛 北斗

私が勤務する上野森林事務所（上野・大多喜担当区）は、千葉県南部の勝浦市、鴨川市、大多喜町に位置する夷隅川や養老川流域の国有林と千葉県北部の銚子市、長柄町に位置する国有林約3600鈔を管理しています。

管内の国有林は、主としてスギ、ヒノキの人工林とカシ、シイ等の天然林で構成されています。

養老川上流部と勝浦ダム周辺の簡森自然観察教育林には針葉樹と広葉樹が混交する房総半島南部の代表的な天然林である南房総暖温帯性植物群落保護林や日本各地から国内外の樹木を集めた見本林、遊歩道等の施設が整備されており、自然観察や憩いの場として利用されています。

私の主たる業務の一つには本数調



銚子市君ヶ浜周辺の国有林



溪流沿いに整備された遊歩道

整伐や保育間伐の調査があり、本年度の調査面積は133鈔です。また、本年度の保育間伐と育成受光伐の実行面積は113鈔、素材生産量は3000m³を予定しており、毎年着実に森林整備を推進しています。

素材生産と販売の特色としては、資材に山武スギがあることです。山武スギは千葉県山武地方で生産され



養老川



樹木見本林

てきたスギで、雄花（花粉）をほとんど着けず、材は通直・完満な良材なのですが、木材腐朽菌によるスギ非赤枯性溝腐病という病気に弱いという欠点があり、当森林事務所の管内にも罹患したスギが多くあります。そのため腐れ部分を除くと歩留まりが低くなるうえ、用材として利用できないものもあります。もう一つの特徴としては千葉県では従来ヒノキを建築材として利用することが少ないらしく、ヒノキの価格が他の地方より低いということです。

このように、素材生産・販売面では厳しい状況ですが、木材の安定供給、森林整備を推進する観点から素材生産を継続していく必要があると考ええます。

千葉南部での林業における今後の問題はニホンジカによる森林被害です。当管轄区域では、今のところ樹



育成受光伐事業地

皮剥ぎや食害により植生が失われたところは見られないので森林被害は少ないと思います。しかし、現状を維持するためにはニホンジカがこれ以上増えないよう今のうちに個体数管理をする必要があると考えます。

ニホンジカとは別の意味で迷惑な生物としては吸血性のヤマビルがいます。ヤマビルは元々限られた一部の地域に生息していたものがニホンジカ等の獣類が増殖するとともに段々と生息域を拡大し、林業従事者を悩ませていきます。

私も、ときどきヒルやダニに咬まれることはありますが、私は現在の現場に一番近い森林事務所での仕事が好きであり、当事務所の職員や本所の職員と協力して林業の発展のため仕事に邁進していきたいと思っています。

管内のいちおしスポット 那須街道赤松林

■ 塩那森林管理署 <http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/enna/index.html>
〒342-0022 栃木県大田原市宇田川1787-15
TEL:0287(28)3125(代表) FAX:0287(28)3531

那須街道赤松林は、栃木県北部にある那須町に位置し、東北自動車道の那須ICの南東約3キロ、県道17号線（通称：那須街道）沿いの両脇に広がる約79畝（東京ドーム17個分）に及ぶアカマツ林です。

この林には、約10000本のアカマツが生育しており、林内にはウッドチップで舗装された遊歩道も整備されていて、アカマツ林内で咲き誇るアジサイやヤマユリなどの花の観賞や紅葉狩、冬場の落ち葉散策等、四季を通して、景観を楽しむことができます。

また、このアカマツ林は歴史があり、明治23年から昭和22年迄は、旧宮内省所管の御料林として管理されてきました。そして、終戦直後の食糧増産が必要な時代には、全て開墾される計画もありましたが、アカマツ林の美しい風景を守るために街道沿いを中心に約5割が残され、現在に至っています。

なお、アカマツ林を臨むことができる那須街道は、那須湯本温泉街へ向かう観光の主要ルートとして、多くの観光客に利用されているほか、昭和の時代より天皇皇后両陛下が那須御用邸への行幸啓、還幸啓される際にご利用される道路でもあります。



アカマツ林を彩る那須街道沿いのアジサイ



アカマツ林内に咲き誇るヤマユリの群落

そして、このアカマツ林について、昭和天皇は、御著書「那須の植物誌」の中で、みごとなアカマツの天然林であり、国有林であったために今日までよく保存されてきた、とお記しになられています。

皆さまも是非一度、足を運んでみてアカマツ林の美しい風景の中で散策を楽しんでみてはいかがでしょうか。

塩那森林管理署広報広聴連絡官 山本 道裕

■ ■ 編 発
F T 行
A E 集
X L 所
(0 0
2 2 総 関
7 7 東
() 森
2 2 務 林
3 1 管
0 0 理
, , 局
1 1
3 1
9 5
3 8 課 局

